



小林鷹之からの手紙
Vol.36

「第193通常国会」

年明けから新年会や節分など地元行事に参加させて頂く中で、よく頂いたご質問は、「今年は景気良くなるの?」。そして、「アメリカとの関係は大丈夫?」の二つでした。既にスタートした国会でも、この二点について議論が行われています。私も、防衛大臣政務官(政府の一員)として議論に参加する立場ですので気を引き締めて臨んでいます。

まず、景気について。最大の景気対策は、予算を速やかに成立させ、執行に移していくことです。総額約97兆円の予算案の柱は、①一億総活躍、②成長分野への重点配分、③働き方改革です。
特に、保育士・介護人材等の処遇改善、年金の受給資格期間の短縮、給付型奨学金の創設などを着実に実現していきます。また、後ほど触れます

平成29年度予算案



①硫黄島戦没者の碑に献花。石碑は遺骨箱をかたどったもの
②ソマリア沖・アデン湾海賊対処行動水上部隊帰国行事(広島県呉市)③南スーダン派遣施設隊帰国行事。派遣中に生まれた子を初めて抱く隊員も(北海道千歳市)



⑬地元市議会議員の皆様が海上自衛隊横須賀地方総監部、防衛省にお越し下さいました⑭地元の女性支援者と⑮地元で政経パーティ開催⑯地元企業の現場へ⑰地元消防団歳末警戒の激励⑱地元行事にも積極的に参加(新年会で大盃)



小林鷹之と語る会

小林鷹之事務所では、小林本人による国政報告と皆様からのご意見を伺うためにミニ集会の開催をお願いしております。5人以上であれば、どこへでもまいりますので、右記の地元事務所までご連絡ください。



国会見学

小林鷹之事務所では、国会見学の受付やルート相談も承ります。見学をご希望される方は、団体名、代表者名、参加人数(男女別、大人子供別)、参加希望日時、ご連絡先を右記の国会事務所までご連絡ください。

ボランティア募集

小林鷹之事務所では、小林鷹之の活動をお手伝いして頂ける方を募集しています(広報紙配布、ポスター貼り、イベントのお手伝い等)。また、小林鷹之のポスターをご自宅や会社に掲示させて頂ける方も、併せて募集しております。ご連絡は地元事務所までお願い致します。

小林鷹之 Profile

東京大学法学部卒業。ハーバード大学行政大学院修了。財務省課長補佐、外交官を経て現在衆議院議員2期目。防衛大臣政務官、自民党青年局顧問等を務める。一女の父。

地元事務所
〒276-0033
千葉県八千代市八千代台南1-3-5 YYビル1階
TEL 047-409-5842
FAX 047-409-5843

国会事務所
〒100-8981
東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館417号室
TEL 03-3508-7617
FAX 03-3508-3997

Facebook | www.facebook.com/hawk.kobayashi
twitter | twitter.com/kobahawk
HP | kobayashi-takayuki.jp



④習志野駐屯地にて陸上自衛隊第一空挺団降下訓練始め⑤海上自衛隊の学校でカター体験(江田島)⑥航空自衛隊小松基地でF15戦闘機に搭乗⑦パーレン国防大臣と。米国ドネガン第5艦隊司令官、英国、NZ等各国の国防省・軍幹部と意見交換⑧在京国防武官との懇親会⑨北朝鮮によるミサイル発射直後の会見⑩官邸にて政務官会議。右側2人は官房副長官⑪東京で第6回朝食勉強会を開催。講師:東日本旅客鉄道株式会社 副会長小縣方樹氏⑫地元小学校の国会見学で、子ども達から質問責めに。

が、成長分野としては、人工知能(AI)、ロボット、IoT、自動走行などの分野で研究開発や実証実験を行い、「第4次産業革命」を推進していくものとなっています。

一方で、次世代に対する責任として財政健全化の視点を忘れるわけにはいきません。特に、歳出の1/3を占める社会保障関係費については持続可能な制度としていくためにも、負担能力に応じた公平な負担や給付の適正化の視点を盛り込んだものとなっています。

今後の日米関係

次に、日米関係について。例年と比べ、地元の皆様の国際情勢に対する関心の高まりを感じます。今年は、米国の新政権誕生のみならず、フランス、ドイツ、韓国などでも大きな選挙が行われます。世界の潮流に変化がもたらされる可能性がある年です。中でも米国の動向は日本の経済・外交・安全保障の観点から非常に大きな影響を与えますから、トランプ新政権の動向に関心が高まるのは当然でしょう。

「日米関係は大丈夫？」との質問には、「心配していません」と答えています。変化や動きを前に捉えていくのが私自身の基本的な考え方です。加えて現在、世界の先進主要国の中で最も政治的に安定しているのが日本です。国際社会の中でリーダーシップを発揮することが期待されていますし、その力が日本にはあります。

経済面では主に、自動車など通商関係が取

よる核・ミサイル開発の進展は重大な脅威であるとの認識、また、③日米同盟の抑止力・対処力を一層強化する必要があるとの認識などをしっかりと共有することができました。

日米同盟がアジア太平洋地域の平和と繁栄の礎であるとの認識を両国が国内外に示した有意義な会談であったと思います。我が国としても、領土、領海、領空と国民の生命・財産を断固として守り抜くためにも防衛力を強化していかねばなりません。

我が国を取り巻く安全保障環境が厳しさを増す中で、防衛大臣政務官として年末年始だけでも、中東パーレンへの出張の他、南スーダンP KO派遣部隊の帰国行事(東千歳)、陸上自衛隊第一空挺団初降下訓練(習志野)、アデン湾・ソマリア沖海賊対処活動部隊の帰国行事(呉)、硫黄島、小松基地、青森駐屯地、大湊地方総監部(むつ市)などを訪れ、職務に邁進しています。やりがいのある仕事ですし、こうした経験を積ませて頂けるのも地元を含め、ご支援いた

り上げられています。しかし、我が国の自動車産業を始め多くの日本企業が、米国内で設備投資を含めた現地生産を進め、雇用にも大きく貢献していることを理解してもらおう必要があります。そもそも、二国間の貿易赤字・黒字という限られた分野での関係に固執すべきではありません。むしろ、より大きな枠組みの中で、日米両国は、互いに利益をもたらす経済関係を構築してきましたし、これからもその関係を一層深化するように動くべきです。

例えば、これから米国が注力していくとされる人工知能などの新たな領域、エネルギー開発、インフラ投資(高速鉄道など)については、日本として技術面で支援や協力ができると思っています。「対峙」ではなく「連携」。そのためにも日米関係を広く捉えていく視野と強固な人脈が両国に求められていると考えます。

私自身も一政治家として、外交官の経験も活かして米国との人脈構築に微力ながら貢献してまいります。

安全保障

安全保障、すなわち日米同盟のあり方も最近よく問われるテーマです。2月上旬にマティス米国防長官が来日し、総理や防衛大臣などとの会談が行われました。

防衛相会談では、①東シナ海・南シナ海における中国の活動がアジア太平洋地域における安全保障上の懸念であるとの認識、②北朝鮮に

だいている多くの方々のお蔭です。

今年は、世界のみならず、私の地元でも様々な動きがあるでしょう。習志野市では新しい市庁舎が完成し、八千代市は市政施行50周年を迎え、千葉市は2020年東京「千葉」オリ・パラに向けた準備が進むでしょう。県知事選、千葉市・八千代市の市長選といった政治面の動きもあります。地域の発展のために、国政の立場からもしっかりと汗をかいてまいります。

最後に。最近も地元のほぼ全ての小学校(6年生)の皆さんたちが国会見学に来てくれます。未来の日本を担っていく主役たちの目は本当に澄んでいますね。

政治は子供たちのために。
このスタンスはぶれることなく今年も活動を続けてまいります。

平成二十九年二月吉日

防衛大臣政務官
象徴院議員

小林鷹之

